

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	基礎作業学理論	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	加藤智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法の歴史に関する解釈学的研究 ・ 基礎作業学に関する研究と発表 ・ 人間作業モデルとカナダ作業療法モデルの実践への応用 					
【一般教育目標 (GIO)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「作業療法」における「作業」の概念について理解する。 ・ 作業に基づく実践としての作業療法を理解する。 ・ 人間作業モデル/カナダ作業療法モデルを理解して実践することが出来る。 						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「作業療法」における「作業」について説明できる。 ・ 人間作業モデル/人-環境-作業モデルについて説明できる。 ・ COPMを用いた作業療法評価を体験する。 ・ 各モデルに基づいて症例の情報をまとめ、論述することが出来る。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	4/9	現代の作業療法の定義、作業の定義。作業療法の輪郭				
2	4/16	作業療法の哲学的基礎 哲学的背景全般について				
3	4/23	作業療法の哲学的基礎 古代養生法としての作業				
4	4/30	アドルマイアーの作業療法の哲学 —「使用」と「自然」—				
5	5/7	ライリーの作業行動理論				
6	5/14	エリクサの人文主義				
7	5/21	作業行動理論から人間作業モデルへ				
8	5/28	人間作業モデル総論				
9	6/4	人間作業モデルの実際				
10	6/11	カナダ作業療法モデル総論 (クライアント中心について)				
11	6/18	人-環境-作業モデルとカナダ作業遂行モデル				
12	6/25	作業の分類				
13	7/2	COPMの実際と作業療法評価				
14	7/9	各理論と事例検討				
15	7/16	試験				
使用テキスト				参考テキスト		
作業療法がわかる COPM・AMPSスターティングガイド / 吉川ひろみ(著), 齋藤 さわ子(著) / 医学書院				キールホフナーの人間作業モデル -理論と応用- 改訂第5版 Renée R. Taylor (著, 編集), 山田 孝 (翻訳)		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
作業療法概論、リハビリテーション概論、生涯発達論 基礎作業学実習				各領域の評価学、治療学		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
レポート (20%), 定期試験 (80%)				60点以上を単位認定とする		

授 業 概 要

課程	医療専門課程		学科	作業療法科	科目名	身体障害の作業療法治療学B		
学年	学期	履修	授業形態	授業回数		授業時間数	単位数	
3年生	通年	必修	講義	60回(コマ)		120時間	8単位	
科目担当教員	遠藤 陵晃 他			科目に関連する 実務経験の有無		有		
科目に関連する 教員背景	病院で10年以上勤務							
【一般教育目標 (GIO)】								
脳血管障害および脳外傷（以下、中枢疾患）を中心に発生機序や臨床症状を踏まえ、急性期～生活期の作業療法の理解を深める。								
症例の生活を理解し、作業遂行障害に対して、論理的に分析し、援助方法を理解、提示する。								
【目標行動 (SBO s)】								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢疾患の発生機序、急性期～生活期の作業療法を説明できる。 ・ 中枢疾患の作業療法を他の関係職種とともに協調して行える。 ・ 関節リウマチ、内部障害（心疾患・呼吸器疾患・悪性腫瘍など）、神経難病における作業療法の考え・目的・流れなど基本的な考え、病態像・症状などを理解し説明できる。作業療法介入について理解し、介入や訓練内容を立案し、説明できる。 								
回数	日程	授業計画または学習の主題			回数	日程	授業計画または学習の主題	
1～3		脳血管障害の総論（発生機序、病態像など）			31～34		関節リウマチの作業療法評価、治療	
4		脳血管障害の障害像の理解（予後など）			35		呼吸器疾患に対する作業療法評価、治療①	
5		脳血管障害の障害像の理解（病期など）			36		呼吸器疾患に対する作業療法評価、治療②	
6		脳血管障害の作業療法評価（画像所見の読影など）			37		循環器疾患に対する作業療法評価、治療①	
7		脳血管障害の作業療法評価（検査など）			38		循環器疾患に対する作業療法評価、治療②	
8～9		脳血管障害の作業療法評価（評価立案、予後予測など）			39		代謝障害、糖尿病と作業療法評価、治療①	
10		脳外傷の総論（発生機序、病態像など）			40		代謝障害、糖尿病と作業療法評価、治療②	
11		脳外傷に対する作業療法			41		悪性腫瘍などに対する作業療法治療学①	
12		中枢疾患に対する治療法総論			42		悪性腫瘍などに対する作業療法治療学②	
13～19		中枢疾患に対する治療法・技術援助			43		神経難病に対する作業療法学総論	
20～24		中枢疾患に対するADL・IADL訓練、指導法			44～48		神経難病に対する作業療法学総論	
25～26		中枢疾患に対する治療法・技術援助①			49～50		高次脳機能障害に対する作業療法学総論	
27～28		中枢疾患に対する治療法・技術援助②			51～57		高次脳機能障害に対する治療法・技術援助	
29		その他の評価・まとめ			58		その他の評価・まとめ	
30		定期試験			60		定期試験	
使用テキスト					参考テキスト			
身体障害作業療法学（ゴールドマスターテキスト）／長崎重信 監／メジカルビュー社、脳卒中最新線急性期の診断からリハビリテーションまで第4版／福井国彦他編／医歯薬出版、ADL・実習15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト、能登真一ほか編集：標準作業療法専門分野高次脳機能障害／医学書院					PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方／中島雅美他／医歯薬出版、リハビリテーションリスク管理ハンドブック第3版／亀田メディカルセンター編 くわがる失語症セラピーと認知リハビリテーション／鹿島晴雄 編／永井書店、図解作業療法技術ガイド 第4版／石川齋 他編／文光堂			
この授業の基礎となる科目					この授業を基礎とした科目			
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、神経内科学、リハビリテーション医学など					作業療法学演習Ⅰ、各臨床実習など			
単位認定の方法及び基準					試験やレポートの評価基準など			
授業態度（10％）、課題提出（10％）、小テスト（20％）、試験（60％）					総合評価にて60点以上で合格とする。			

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	老年期の作業療法治療学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3年生	通年	必修	講義	30回(コマ)	60時間	4単位
科目担当教員	穴戸 真帆 遠藤 陵晃			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	病院などで老年期作業療法に5年以上の経験あり					
【一般教育目標 (GIO)】						
・高齢者のADL、QOLを支援するための作業療法の基礎的知識を身につけることができる。						
【目標行動 (SBOs)】						
・老年期障害に対する作業療法の特徴や基本的な視点について理解し、説明ができる。						
・認知症高齢者・虚弱高齢者・障害高齢者に対する作業療法の基本的な考え方や実践について理解し、説明ができる。						
・高齢者の生活やQOLを支援するための作業療法の基礎的知識を理解し、説明ができる。						
・各施設に求められている作業療法の介入方法を立案できる。						
回数	日程	授業計画または学習の主題		回数	日程	授業計画または学習の主題
1		オリエンテーション		16		オリエンテーション
2		老年期作業療法の対象		17		老年期作業療法の介入①
3		老年期作業療法の制度的位置づけと実施形態		18		老年期作業療法の介入②
4		高齢者の生活体験		19		高齢者のレクリエーション・アクティビティ計画作成
5		高齢者の生活体験について発表		20		高齢者のレクリエーション・アクティビティ導入計画
6		老年期とはどのような時期か①		21		高齢者のリスク管理
7		老年期とはどのような時期か②		22		事例検討①
8		家族介護の関わり、高齢者の人権の権利擁護		23		事例検討②
9		老年期作業療法の評価①		24		高齢期作業療法の実践①
10		老年期作業療法の評価②		25		高齢期作業療法の実践②
11		老年期作業療法評価の課題発表		26		介護予防の作業療法
12		高齢者障害の生活への工夫①(自助具)		27		老年期における他職種、他機関等の連携
13		高齢者障害の生活への工夫②(自助具)		28		事例発表①
14		高齢者の生活障害についてのアプローチ		29		事例発表②
15		定期試験		30		定期試験
使用テキスト				参考テキスト		
標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版/新井健五・勝山しおり編/医学書院				老年期の作業療法 改訂第3版/鎌倉矩子 他編/三輪書店 図解 作業療法技術ガイド /石川齋 他編/文光堂		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、神経内科学、リハビリテーション医学など				作業療法演習Ⅰ、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
授業参加態度(10%)、課題(25%)、グループ課題(25%)、定期試験結果(40%)				総合評価で60%以上を合格とする		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	作業療法治療学演習 II	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3	前期	必修	演習	15回(コマ)	30時間	1単位
科目担当教員	幸 信歩			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	作業療法士として精神科病院や地域施設で20年以上の臨床経験有					
【一般教育目標 (GIO)】						
①臨床医学や作業療法評価と治療学を基に、対象者の状態をその人のライフヒストリーから考察し、作業療法の役割、評価、治療支援などを立案できる。						
②事例を通して、作業療法導入から治療支援までの方法と内容への理解を深めることができる。						
【目標行動 (SBO s)】						
①精神科における対象者への関りをライフヒストリーから考察できる。						
②チーム医療の観点から作業療法士の役割と目的に対して学生自身の意見がもてる。						
③自分のライフヒストリーから自分と対象者との関りの強みが導き出せる。						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	4/10	オリエンテーション				
2	4/17	精神科作業療法の視点と役割の確認				
3	4/24	精神疾患を持つ人の立場の確認(社会でのマスメディア情報から)				
4	5/1	精神疾患を持つ人の地域での暮らしと就労				
5	5/8	精神医学の復習 I				
6	5/15	精神医学の復習 II				
7	5/22	気分障害シネマエデュケーション I				
8	5/29	気分障害シネマエデュケーション II				
9	6/5	統合失調症シネマエデュケーション I				
10	6/10	統合失調症シネマエデュケーション II				
11	6/11	アディクション シネマエデュケーション I				
12	6/26	アディクション シネマエデュケーション II				
13	7/3	PSW×OT公開対談				
14	7/10	試験				
15	7/17	振り返り				
使用テキスト				参考テキスト		
・主に配布資料を用いる。 ・主観的感覚といきづらさに寄り添う:岩根達郎(メディカルビュー)				精神障害と作業療法新版(三輪書店) ※オンラインでPSW×OT公開対談を行います。		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
精神医学、心理学、評価学、治療学等				総合臨床実習		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
レポート提出、調べ学習への取り組み、授業参加態度、試験				レポート5回×10%、テスト45%、授業態度5% 全体100%の6割以上で合格		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	作業療法治療学演習 II	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
4	集中	必修	講義	15回(コマ)	30時間	1単位
科目担当教員	幸 信歩			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	作業療法士として精神科病院や地域施設で20年以上の臨床経験有					
【一般教育目標 (GIO)】						
①作業療法の職場で求められる業務(臨床場面以外)の基本について学習する。						
②医療福祉保健に関する会社としての基本的な運営概念やその方法について知る。						
【目標行動 (SBOs)】						
①作業療法士の業務全般への理解を深める。						
②医療福祉保健に関する経営や運営概念とその方法について理解する。						
③作業療法士としての基本的に態度と心得への理解を深める。						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1		オリエンテーション				
2		マネジメントとは				
3		機能と業務サイクル				
4		組織論				
5		情報管理				
6		作業療法サービス・マネジメント				
7		安全マネジメント				
8		業務マネジメント①				
9		業務マネジメント②				
10		新人作業療法士の心得				
11		役割と職域				
12		職業倫理				
13		まとめ				
14		試験				
15		振り返り				
使用テキスト				参考テキスト		
作業療法管理学:大庭潤平(医歯薬出版)				高齢者作業療法と地域作業療法で使用した教科書		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
作業療法概論、各領域の作業療法評価と治療等				総合臨床実習		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
小テスト、授業参加態度、試験				テスト50%、授業態度10%、小テスト40% 全体100%の6割以上で合格		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3	集中	必修	実習	1回	405時間	9単位
科目担当教員	遠藤陵晃 他			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員としての実務経験 ・臨床作業療法の実務、病院・施設での実習指導者としての実務経験 					
<p>【一般教育目標（GIO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養う。 ・作業療法評価・治療について見学—模倣—実施を段階的に経験して作業療法技術を習得する。 ・実習指導者が実施する事例に対する臨床思考過程及び実践能力を学ぶ。 						
<p>【目標行動（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレセミナーを受講し、実習に向けて模擬患者を通じて、レディネスを高め、自己の実習課題について述べることができる。 ・専門職、職業人（OT学生）として、望ましい態度や行動をとることができる。 ・作業療法評価を計画・実施し、対象者の生活機能と障害について検討できる。 ・作業療法計画を立案し、その計画に沿って作業療法を実施する。 ・再評価を適切に実施し、作業療法計画を修正できる。 ・チームの一員として連携の方法を習得し、専門職としての責任と自覚を身につける。 ・臨地実習後のポストセミナーにおいて、事例を通じて学んだ内容について再検討してまとめ、発表することができる。 ・ポストセミナーにおいて、事例について互いに討論できる。 ・ポストセミナーにおいて、他の学生の学んだ内容について情報共有できる。 						
日程	授業計画または学習の主題					
1/04-1/06	プレセミナー5日間					
1/08-3/01	臨地実習					
3/04-3/07	ポストセミナー4日間					
使用テキスト				参考テキスト		
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック、誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のためのSOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社、初版						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
臨床実習Ⅱ、各領域の作業療法治療学				臨床実習Ⅳ、Ⅴ、研究A		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
①プレセミナー+ポストセミナーの出席 ②臨地実習 ①②共に85%以上の出席が単位取得の最低条件。				プレセミナー（事前書類の提出含む）15%、臨地実習50%、ポストセミナー（事後書類の提出含む）25%、連絡事項10%。60%以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
4	集中	必修	実習	1回	405時間	9単位
科目担当教員	遠藤陵晃 他			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する教員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員としての実務経験 ・臨床作業療法の実務、病院・施設での実習指導者としての実務経験 					
【一般教育目標（GIO）】 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養う。 ・作業療法評価・治療について見学―模倣―実施を段階的に経験して作業療法技術を習得する。 ・実習指導者が実施する事例に対する臨床思考過程及び実践能力を学ぶ。 						
【目標行動（SBOs）】 <ul style="list-style-type: none"> ・プレセミナーを受講し、実習に向けて模擬患者を通じて、レディネスを高め、自己の実習課題について述べるができる。 ・専門職、職業人（OT学生）として、望ましい態度や行動をとることができる。 ・作業療法評価を計画・実施し、対象者の生活機能と障害について検討できる。 ・作業療法計画を立案し、その計画に沿って作業療法を実施する。 ・再評価を適切に実施し、作業療法計画を修正できる。 ・チームの一員として連携の方法を習得し、専門職としての責任と自覚を身につける。 ・実習後のポストセミナーなどで、事例を通じて学んだ内容について再検討してまとめ、発表することができる。 ・ポストセミナーにおいて、事例について互いに討論できる。 ・ポストセミナーにおいて、他の学生の学んだ内容について情報共有できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	5/27-31	プレセミナー5日間				
2	6/3-7/26	臨地実習				
3	7/29-8/2	ポストセミナー4日間				
4		実習振り返り				
5		振り返り発表				
使用テキスト				参考テキスト		
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック、誠信書房						
岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のためのSOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社、初版						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
臨床実習Ⅱ、各領域の作業療法治療学				臨床実習Ⅳ、Ⅴ、研究A		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
①プレセミナー+ポストセミナーの出席②臨地実習 ①②共に85%以上の出席が単位取得の最低条件です。				プレセミナー（事前書類の提出含む）15%、臨地実習50%、ポストセミナー、振り返り30%、連絡事項5%、60%以上を合格とする。		